

地域活性化対策検討特別委員会

中間報告書

平成28年9月春日部市議会定例会

1. 特別委員会の開催状況

開催日	会議名	審査事項
H27. 12. 18	第1回特別委員会	・委員長、副委員長の互選について ・閉会中の特定事件について
H28. 1. 19	第2回特別委員会	・委員会の活動方針について ・地域活性化に関する意見交換について
H28. 2. 17	第3回特別委員会	・委員会の進め方について ・現状の把握について
H28. 3. 9	第4回特別委員会	・現状の把握について ・閉会中の特定事件について
H28. 5. 20	第5回特別委員会	・現状の把握について ・今後協議を行うテーマの選定について
H28. 5. 26	第6回特別委員会	・副委員長の互選について
H28. 6. 7	第7回特別委員会	・今後協議を行うテーマの選定について ・閉会中の特定事件について
H28. 7. 19	第8回特別委員会	・今後協議を行うテーマの選定について
H28. 8. 8	第9回特別委員会	・今後協議を行うテーマの選定について

2. 審査経過

(1) 第1回特別委員会

平成27年12月18日に第1回特別委員会を開催しました。この特別委員会は、平成27年12月定例会において、調査項目を「1 本市の人口減少等に係る諸課題の把握について」、「2 人口流出防止対策や少子化対策等について」、「3 将来にわたって地域の活力を維持するための方策等について」として設置されたものです。今後、地域活性化のための対策を検討し、市議会としての方向性を審査していきます。

なお、この会議では、本会議で選任された委員の中から委員長及び副委員長が互選されました。

(2) 第2回特別委員会

平成28年1月19日に第2回特別委員会を開催しました。この会議では、「委員会の活動方針について」及び「地域活性化に関する意見交換について」の2つの議題について、関係性が深いことから、一括して意見が求められました。

《主な意見》

- ・特別委員会として検討する範囲をどこまで広げるのか決めていく必要がある。
- ・人口減少の現状と課題を執行部がどのように分析しているのか把握する必要がある。
- ・越谷市と久喜市を比較検討することが望ましいのではないかな。
- ・春日部市にしかないものを見つけて検討することがいいのではないかな。
- ・子育て世代や女性が転出超過になっているのが問題。分析と現状把握が必要。
- ・春日部市が抱える現状を委員の間で共通認識としなければならない。
- ・春日部市からの転出は、越谷と岩槻に多いことを踏まえる必要がある。
- ・市議会としては、執行部に対して一定の方向性を示していければいいと思う。
- ・サラリーマンがどこに通勤しているのかが分かるデータが必要ではないかな。
- ・サラリーマン家庭の数、家は自己所有なのか、賃貸なのかなどを把握する必要があるのではないかな。
- ・市内の経済活動が把握できる資料が必要。
- ・企業として営業所の機能が春日部に置かれているのか、支店があるのか、分室があるのかを把握する必要があるのではないかな。
- ・若い人が引きつけられる理由を把握する必要があるのではないかな。
- ・合併から10年、用途地域の変更が行われていない。規制緩和のようなものが必要ではないかな。
- ・子育てするには、よいまちであることを議会としても見つけて、提案することも必要ではないかな。
- ・電車が掛かっても子育て支援のあるところに住みたいという人は多い。
- ・住みよいか、子育てしやすいか、魅力があるかどうかを大事ではないかな。
- ・若い人が住む場所を選ぶ理由は、子育て支援だけなのか。新興住宅地などの開発も含めて検討するのもおもしろいのではないかな。
- ・医療施設、買い物、教育の充実、交通の便がいいのかということが求められるのではないかな。
- ・定住できない方に「子育てを」と言っても的確ではないのではないかな。定住できるように誘導し、人を逃さないことが重要ではないかな。
- ・企業誘致により生活圏としての位置付けができて、定住してもらうことが必要ではないかな。
- ・跡取りが親と住まずに市外へ行ってしまう。また、跡取りが戻らず空き家になってしまっていることへの対策が必要ではないかな。
- ・若い方が求める職場が春日部にはあまり無いのではないかな。若い人が勤められる環境が春日部でどれくらいあるのかを把握する必要がある。
- ・全員協議会で説明のあった人口ビジョンの中で、春日部市に居たいと思う方の意見、転出された方の意見を把握する必要がある。
- ・春日部の子育ては充実している。もっと知ってもらう努力が必要。子育てが充実しているイメージを含めた戦略も必要ではないかな。

(3) 第3回特別委員会

平成28年2月17日に第3回特別委員会を開催しました。

〔委員会の進め方について〕

今後の審査の進め方を考えるための資料として、調査項目を柱に各委員からの意見をまとめた書類が配布され、最初に現状及び課題の把握を行い、その後に対策などを検討していくことが確認されました。また、特別委員会の提言内容を平成30年度に予定されている新たな総合振興計画の策定に反映させることを目標に、平成28年度末までに取りまとめていくことが了承されました。

〔現状の把握について〕

春日部市の現状を把握するために必要な統計書などの資料が各委員に配布され、資料を基に各委員から意見が出されました。

《主な意見》

- ・さいたま市や越谷市の人口が増えている。さいたま市はマンションが増えたこと、越谷市はレイクタウンの整備が要因ではないか。さいたま市や越谷市のいいところを取り入れる必要があるのではないか。
- ・東埼玉道路も通る立地を生かして企業誘致を進めてきたが、ショッピングモールなどに加え、もっと雇用につながる誘致が必要ではないか。
- ・働く場所があれば若い方も引っ越して来て、子育て施策もどういったものが必要になるのかが見えてくると思う。
- ・転入理由は、仕事や結婚を機にというのが多いようである。
- ・鉄道高架、交通の利便性、医療の確保、子育てが市民アンケートのテーマであることを考えれば、こういったものも含めて総合振興計画の中に盛り込む必要があるだろう。
- ・利便性のあるところに住居等を構えられるのは、非常に大きな要因となる。市の土地利用の考え方をきちんと捉え直すことが必要。
- ・越谷市までは信用金庫などの支店や営業所があるが、春日部市はATMだけになっており、差が生じている。企業に営業所などを構えてもらえるような行政からのアプローチが必要ではないか。
- ・春日部市には地方庁舎などもあり、駅周辺においてワンストップで用事が足りる。いい特性だと思うが知られていないのではないか。
- ・県の出先機関等も含め、市と連携し、同じ建物の別のフロアで用事が済ませられるようなことも考えてはどうか。
- ・春日部市には公立中学校のほか、私立の中学校もある。教育環境を選択できる環境がある。また、私立の中学校や高校には市外からも多くの生徒が通ってくるので何か活用することはできないか。
- ・ベッドタウンとして東京へ通う人が多い。通勤の快適さが求められるのではないか。春日部から急行で地下鉄に入っていけるような快適さを求めることが必要ではないか。
- ・災害による被害が少ないことをアピールし、埼玉県が住みやすいところだとPRしてはどうか。

- ・レイクタウンのようなイメージ戦略は民間が行っている。行政発信だけでなく民間の戦略にも載せられないかをシティセールスの観点から考える必要もあるのではないかと。
- ・若い世代が家を買って住むというようなことができれば一番いいと思う。
- ・春日部市には無いイメージとして「高級感のあるまち」、「若者向けなまち」、「都会的なまち」、「おしゃれなまち」、「洗練されたまち」が挙げられてしまっている。イメージが与える影響は大きい。
- ・大宮駅に流山市のポスターが掲示してあり、短いキャッチフレーズで住んでみたいまちをアピールしていた。一つのイメージ戦略として有効なのではないかと。
- ・春日部市のイメージを上げるためには鉄道高架が必要だと思う。
- ・転出理由に挙げられるのが「自分の仕事の都合」、「家族の仕事の都合」であり、雇用の増加が大事なことが分かる。
- ・安い価格で住宅を手に入れられ、通勤が便利で住みやすいなどの魅力が必要。
- ・雇用をどのように生み出すか、通勤・通学の利便性の向上が春日部の魅力として必要。
- ・住みたいまちのイメージ作りとして、駅の整備は避けて通れない。
- ・何を以て子育て支援なのかを細かく検討する必要がある。

(4) 第4回特別委員会

平成28年3月9日に第4回特別委員会を開催しました。

〔現状の把握について〕

この会議では、各会派における意見調整などの協議を引き続き進め、次回の会議で報告してもらうことが確認されました。

〔閉会中の特定事件について〕

議会の閉会中に特別委員会の会議が開催できるよう手続きが行われました。

(5) 第5回特別委員会

平成28年5月20日に第5回特別委員会を開催しました。

〔現状の把握について〕

春日部市の現状に関して、第3回特別委員会で配布された各資料に質疑などはなく、今後の審査に活用していくことが確認されました。

〔今後協議を行うテーマの選定について〕

これまでの会議で地域の活性化や人口減少に関する現状及び課題の把握を広く行ってきましたが、課題は多種多様なことから、いくつかの柱となる大きな課題に絞り込む必要があるとの意見が出されました。

《主な意見》

- ・若者の定住促進に関しては、働く場所を増やしていく必要がある。
- ・春日部市民は鉄道を使つての通勤が多く、鉄道の利便性を向上させる必要がある。
- ・子育て支援のさらなる充実が重要となる。
- ・UR都市機構も関係してくる問題だが、武里団地を考えていく必要がある。

（６）第６回特別委員会

平成２８年５月２６日に第６回特別委員会を開催しました。この会議では、同日行われた各委員会委員の変更などから、地域活性化対策検討特別委員会では副委員長の互選が行われました。

（７）第７回特別委員会

平成２８年６月７日に第７回特別委員会を開催しました。この会議では、新たに選任された委員にこれまでの経過が説明され、その後に意見交換が行われました。

〔今後協議を行うテーマの選定について〕

さまざまな課題の中から、今後の協議を進める上で柱となるテーマについて、意見が出されました。

《主な意見》

- ・ 武里団地の再生について、エコタウンやシルバータウン整備。
- ・ 若い世代を呼び込むための武里団地の建替え。
- ・ 武里団地の人口減少の対策として、若い世代を呼び込む戦略の検討。
- ・ 春日部駅東口のまちづくり。
- ・ 北春日部駅の開発による企業誘致、ニュータウンの整備。
- ・ 東埼玉道路の早期実現。
- ・ 一ノ割駅、豊春駅周辺のまちづくりに伴う用途地域の見直し。
- ・ 最重要課題として、企業誘致及び雇用促進への取り組み。
- ・ 粕壁宿の整備として、古利根川沿いの整備やレトロなまちづくり。
- ・ B級グルメの開催。
- ・ クレヨンしんちゃんの活用として、ミュージアムの建設、モニュメントの設置。
- ・ 市のイメージを高めるためのイメージ戦略の展開。
- ・ 駅ナカ、駅チカの小規模保育所の整備、学童保育の時間の延長。
- ・ 鉄道高架に隣接した子育て支援施設の整備。
- ・ 子育て支援、福祉分野、教育分野の充実。
- ・ 若い世代、子育て世代の転出を解決できるような政策的な展開。

〔閉会中の特定事件について〕

議会の閉会中に特別委員会の会議が開催できるよう手続きが行われました。

（８）第８回特別委員会

平成２８年７月１９日に第８回特別委員会を開催しました。この会議では、各会派に持ち帰りとなっていた今後の協議を進める上で柱となるテーマについて、報告が行われました。

また、これまでの意見を集約する資料が配布され、改めて意見を取りまとめてくることになりました。

《主な意見》

- ・人口減少を食い止め、人口を増加させていくには、住む場所を造らなければならないことに考慮する必要があり、武里団地の再生と活性化が求められる。また、住む場所だけでなく、働く場所も必要なことから企業誘致も必要になる。住む場所と働く場所の2点に絞るのがいいのではないか。
- ・武里団地の再構築として、UR都市機構への強力な働きかけと、優良な居住空間に変えていくことで人口増加につなげる。土地利用推進と企業誘致をシティセールスの片翼に位置付け推進を図る。観光資源の活用として観光資源の発掘などから長期的な経済効果を生み出していく。

(9) 第9回特別委員会

平成28年8月8日に第9回特別委員会を開催しました。この会議では、前回の会議での意見及び配布のあった資料の内容を基に会派で取りまとめられた内容が報告されました。なお、今後協議を行うテーマは、①武里団地の再構築、②土地利用推進と企業誘致、③観光資源の活用の3つについて、子育て支援の観点を持ちながら議論を進めていくことで了承され、具体的な目標数値も考えていったほうがよいなどの意見も出されました。

また、各委員が共通認識を持てるようテーマに沿った現地視察を行うことも併せて決められました。

《主な意見》

- ・資料にある3つのテーマで問題はない。情報発信を横断的にできるよう考える必要があり、総合振興計画に反映させるのであれば、具体的な数値目標も話し合っていこうとの意見もあった。
- ・基本的に異論はなく、子育て支援の観点をしっかりと盛り込んでほしい。
- ・絞り込まれた3つの方向性でよい。

〔地域活性化対策検討特別委員会〕

【調査項目（付託案件）】

- 1 本市の人口減少等に係る諸課題の把握について
- 2 人口流出防止対策や少子化対策等について
- 3 将来にわたって地域の活力を維持するための方策等について

◆何のために設置されたのか？

- 人口減少対策
- 経済の活性化対策



春日部市総合振興計画（第2期計画）に市議会の意向を確実に反映させる

◆テーマの絞り込み

①武里団地の再構築

あらゆる手段でURへの強力な働きかけを行う。

人口減少の最も多い武里団地を優良な居住空間に変え、人口減から人口増へつなげていく。

（これまでの各委員からの主な意見）

- ・エコタウン、シルバータウン整備
- ・多摩ニュータウンの再生を例とした建て替え等による入居戸数の増加策
- ・無印良品との連携によるリノベーション等や女子高校生の意見を反映するなどの若い世代に向けた居住空間の提案
- ・武里団地の人口減少が春日部市の人口減少の主な原因として捉えた、若い世代へのアプローチ
- ・武里団地の活性化

②土地利用推進と企業誘致

シティセールスの片翼に位置付け推進を図る。

市内経済の発展、法人税の増収、雇用機会の増加につなげていく。

（これまでの各委員からの主な意見）

- ・「東埼玉道路の早期開通」
- ・経済の活性化の観点から、市の税収アップにも関係する労働人口の増加策の検討
- ・若い世代の定住のための企業誘致について
- ・主要道路などの沿道サービスの充実

③観光資源の活用

観光資源の発掘などから、長期的な経済効果を生み出す。

観光資源を有効活用し、地域経済の底上げにつなげていく。

（これまでの各委員からの主な意見）

- ・古利根川沿いの整備、レトロなまちづくり
- ・春日部駅東口のまちづくりにおける活性化策の検討
- ・クレヨンしんちゃんのミュージアムの建設、モニュメントの設置
- ・市のイメージアップのための施策
- ・古利根川等の既存資源を活用した観光行政

地域活性化対策検討特別委員会 委員名簿

委員長	小久保 博 史
副委員長	岩 谷 一 弘 (平成 28 年 5 月 26 日から)
副委員長	滝 澤 英 明 (平成 28 年 5 月 26 日まで)
委 員	水 沼 日出夫 (平成 28 年 5 月 26 日から)
委 員	佐 藤 一 (平成 28 年 5 月 26 日から)
委 員	金 子 進
委 員	今 尾 安 徳
委 員	並 木 敏 恵
委 員	吉 田 剛 (平成 28 年 5 月 26 日から)
委 員	古 沢 耕 作 (平成 28 年 5 月 26 日まで)
委 員	矢 島 章 好
委 員	木 村 圭 一
委 員	荒 木 洋 美
委 員	会 田 幸 一 (平成 28 年 5 月 26 日まで)
委 員	山 崎 進 (平成 28 年 5 月 26 日まで)